

## Frank (Francisco Deleon) Guerrero 氏インタビュー

2011年9月 八幡神社から坂を上った所にあるゲレーロさん自宅にて

ゲレーロさんは、サイパンの高台 **Kannat Taddong Papago** に残る八幡神社を所有する地主。八幡神社は日本統治時代1930年代に建立され、太平洋戦争の砲火を避けて存続した貴重な史跡。ゲレーロさんが個人的に維持してきたが、2007年にアメリカ国立史跡に認定されました。

ゲ： フランク・ゲレーロさん

小： 小代有希子

ゼ： ゼミ生（青木麻衣、加地弘明、桜井俊寿、エスゲラ・ジェリック、嶋谷亮太、  
寶川里奈、手嶋雄紀、山下昌志）



ゼ： こんにちは。国際関係学部の小代ゼミ生です。今日はサイパンのことを知りたくて来ました。よろしくお願ひします。日本からのお土産です。（お辞儀）

ゲ： （お辞儀して両手で受け取る。）

小： 今年も（ゲレーロさんが護る）神社を見せていただきます。よろしくお願ひします。

----- (下田四郎氏 [注:『ハファディサイパン』ページの III.(2)を参照] がこの神社を訪問したことについて)

ゲ: はい、来ました。ああ・・・うーんと、5日前(ごにちまえ)ね。で、あのお僕のアドレスあげたからね。あの、このあいだ、あの・・・んと・・・て・・・あの・・・天皇陛下がサイパンに来るときに、一緒に来ました。で、八幡神社で、あの・・・戦争の・・・、あの・・・旗と一緒にあるの、写真撮って。今もう・・・待ってますからね。もう、僕らとあの人たちとで、(聞き取り不可)・・・(注:下田氏は)もう80・・・3才(はちじゅうさんさい)かな。

小: そのくらいって言っていましたね。

ゲ: この間、あの人たち、将校の、あの・・・ああ・・・トノイケさん・・・400で、自分だけ残った。シマダさん。

小: シマダさん・・・はい。

ゲ: で、隊長は、このところに(と、家の外を指差して)、あの、燃えたんですね、あの死んだときに。

小: はあ・・・。ゲレーロさんずいぶんいろんな方たちご存じなんですね。下田さんもご存じだし。あれ・・・天皇陛下にはお会いしたんですか、ゲレーロさんは。

ゲ: ああ、天皇陛下、あの・・・来(き)なかったんで。(注:サイパン滞在は?)一日(いちにち)、一晩(ひとばん)だけだからね。んと・・・天皇陛下の組が来ました。えっと、その時は10人ぐらい。

小: はい。

ゲ: で、その時に、あのお、その下(自分の背後の方向を指差して)に泊まったんです、その兵隊さんたち・・・戦車隊は。

小: はい。

ゲ: ... 僕のお父さんと隊長は・・・お・・・お友達ね。(ツモニチョウギ? 聞き取り不可)は、その近く、僕らのお母さんの山で泊まって。あとで1日、僕のお父さん話してね。(左手にタバコを持って、バルコニーの外を眺めてしばらく沈黙。)

-----

ゲ: あの、自分で ticket 買って、僕と奥さん、あの、そのとき、あのお・・・埼玉県、あの、シロウ・コバヤシ(?)ね。あれは小さい時に、あの、神社がサイパンに、神社に参拝してるからね。で、そのと

きには、僕はあのお、個人タクシーで、僕は business ね。 で、こっちに（注：サイパンで？）遊んだとき、よく僕ら、あ、日本の方も知ってるとこ、北の方が、南のところに連れていくんですよ、学校で。もうタクシーの方は こっちに持ってきて。（またしばらく外をながめて沈黙。）

.....

ゲ： （神社のほうを指差して）これが一番まあ、日本に上がったね。

小：ほんとにねえ。

ゲ：この八幡神社。

小：ほんとにねえ。

ゲ：清掃・・・僕の時には、いつもきれいになってます。

小：はい。



ゲ：毎日掃除してますから。今はちょっと、セツペン（自分？）が、つかめた（疲れた？）ときに、もう・・・ジャングルになったね。だから、明日（あした）、あの（聞き取り不可）に行きますからね。

小：はい。

ゲ：もう日本から、あのお、お客さんも来てます。学校の生徒もね。（英語を發したようだが、聞き取り不可）もう二件目も、東京のテレビ、来ましたよ。

小：ああ、そうですか。

ゲ：あ、マイク・・・マイク・・・？

小：松本（ウィリー）さん・

ゲ：松本さんね。（注：松本ウィリー氏がテレビ局の取材・撮影班を連れてきたということ？）

小：ああ、そうですかあ。

ゲ：（しばらく考えて）・・・もう二件目。

小：はあ。

ゲ：もう・・・3週間前から。えっと・・・サイトキにね（？聞き取り不明）  
（たばこを吸う。）

.....

ゲ：おっきい病院あるでしょ。チチュウ(?)病院。

小：はい。

ゲ：あのオーナーが、僕、お友達。（笑顔）

小：ああ、そうですか。

ゲ：・・・だった。と、オサナトモダチ（幼友達？）ね。

小： はあ。

ゲ： 一番大きい病院。

小： はい。

ゲ： チチュウ病院って名前。東京。 あの・・・手つってんでしょ、あの肩、全部ね。(意味不明?)で、薬ももらって。ええ。

.....

ゲ： ええ、その八幡神社の・・・新聞にね、10年・・・10年前、会った時に・・・で、死んだあと、コバヤシ・イチロウ・・・イチロウ・コバヤシのお父さんもね・・・コウ(ゴウ?)さん・・・たくさん来ました。あのときに、200、300来てます。日本から。その、あの、八幡神社。(と神社の方を指差して)1年で・・・1回来て、ああ・・・(何かを思い出そうとして、言葉に詰まり、考え込む。)

.....

小： 3月の15日が・・・

ゲ： あのお、記念でね。(と右手の人差し指で、空中をかきまぜるしぐさ)10年なったとき、もう僕らの相談も、終わりだからね。

小： ああ・・・

ゲ： もう10年なったときにね、終わった。Nineteen-ninety(1990年)・・・Nineteen-ninety.

.....

小： では日本の大学生に、何かお伝えすることがあったらどうぞ。

ゲ： (うなづきながら)あの・・・何て言う・・・?

小： どんなことでも。あの、何かメッセージがあったらば。

ゲ： あの、先生が・・・

小： はい。

.....

ゲ： 私(わたくし)、とったときにね、ちょっとあの、また・・・ゆっくりで、あの・・・勉強しましたね、あの、日本の。(しばし沈黙)・・・沖縄でもね、たくさん来ました。1年で1回。大勢来てます、この地帯(?)は。その時に、あのお、何ていう・・・ああ・・・サイパンに、あのお、終戦のときに、あがったでしょう。(と、右手を上に掲げるジェスチャーをしながら)「ありがとう、生まれたサイパンで」(?)日本の方でも。だから、その人たち、日本から沖縄来たら、すぐ僕に・・・あの、八幡神社に、お参りしてます。・・・(そ)して、この間また、シムラさん(?)と一緒に行って、お参りしてます。

.....

ゲ： この戦闘・・・ 沖縄・・・ アメリカの方も来てますよ。うちで。と・・・あの、ペドロ。もう、ペドロが来たときに、もう 10 人・・・の方、来ました。男と女ね。・・・やっています。 けども、もう年が・・・あがったときね。今は、僕の年は、76 才。 まあ、時に、あのお、骨もね、圧倒的に痛いでしょ。  
(笑) だから・・・(寂しそうな表情で長く黙ってしまう。)

.....

小： 日本の学生がこう、(八幡神社に) 戻ってきて、お手伝いしてきれいにするようなことしたりとかねえ、できるといいんですけどねえ。

ゲ： (そうそう、と何度も笑顔で、うなづきながら) 僕のことは、あの時の・・・あの・・・イジン (? 聞きとり不可) が、電話しました。ゲレーロさん、明日、日本行ってください。もう、あんたの ticket、奥さんの・・・ありますから。で・・・大勢いますね、友達。

.....

ゲ： いりますよ。 違います。きっと、眠りにく (? 言ったら、もう本当は、日本来ました、だから連れて行ってます。僕と奥さんね。一日、一晩泊まって。

.....

(フレームに入れて 壁に飾られている写真を ゼミ生に指差して示しながら)

ゲ： これお父さん。 悪いね。(?) これも。

小： (ゼミ生に説明して) あの、ほら日本が敗戦しても、(一部の日本兵は) それを信じないで山の中に逃げて戦ったじゃない、ゲリラで。その人たちを、ついにゲレーロさんのお父さんが探し出したっていう話。

ゲ： (写真を見つめながら、何かを考えている様子。沈黙。)

.....

(以下は、2008 年度サイパン研修で、同じ写真について 3 期生に説明する様子。背景にバッハのピアノ曲メドレーの CD が流れている。 ゲレーロさんのお気に入りか。)

ゲ： これあの・・・兵隊さんね。 戦争終わったときに、あの・・・この辺あたりに・・・もつとあの・・・何ていう、あの、ああ・・・ それは Tinian. 隠れたんですね。きっと、ああ、1 ヶ月か 2、3 月 (にさんげつ)。 アメリカ入ったときに。 で、僕のお父さんが、あの、これ。(と写真を指差して) と・・・4 人、丸い (? ね、あのアメリカの兵隊さん。でも 2 つは・・・うちのお父さん、18 才のときね、あの、日本 (にほん) にいて、その学校で勉強して・・・で・・・日本の (聞き取り不可) またアメリカの兵隊と仲良くなった。

ゲ： これ、あの、テニアンね。これは、どこだろ。 これ・・・この方は、すぐ捕まったとき、日本に行って、でハワイに行ったときにオウボウした(?) (合掌のジェスチャー) って言った。

ゲ： あの、戦争終わったとき、僕ら終わった。(聞き取り不可) ちょっとパパイヤもある。(注：食べなさい、ともてなしてくれる)

小： (壁にかけられた鹿の頭部の剥製を指して) あれはグレーロさんが捕まえたんですか？

ゲ： はい。(やや得意そうに笑って) 鹿。

ぜ： はあ、すごーい。

小： いるんですね、山の中に。

ゲ： そうです。



宇宙飛行士向井千秋氏も、ここを訪れているようだ。